

## XX—5. 瑞浪コハクから発見されたキレコミヤスデ属について

(Diplopoda : Polydesmoidea)

湊 宏\*

大阪市立自然史博物館の宮武頼夫氏から岐阜県瑞浪市釜戸町上荻の島産（産出層準：洪積世中期）のコハク中に包含されているヤスデ類の同定依頼があった。筆者の調べでは次の様な結果がわかったので報告する。

*Rhipidopeltis* sp. キレコミヤスデ属の1種（第XX—5—1図）

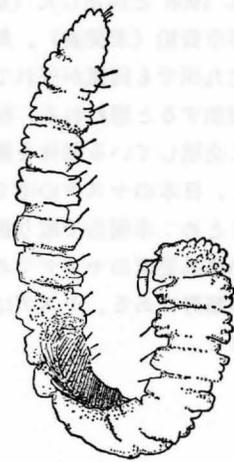
（倍脚綱 Diplopoda—唇顎亜綱 Chilognatha—  
前雄上目 Praterandria—オビヤスデ目 Polydesmoidea—オビヤスデ亜目 Polydesmidea—  
クビヤスデ科 Cryptodesmidae—ハガヤスデ亜科 Pyrgodesminae—キレコミヤスデ属 *Rhipidopeltis* Miyosi, 1958）

所検標本と標本番号；1個体（No. 134C—b）

保存状態；頭部を腹面に曲げた姿勢で封じこめられている。このようなヤスデの姿勢は警戒静止といわれ、ものに驚いたり、危険がせまるとよく見られる。キレコミヤスデ属 *Rhipidopeltis* の特徴である後環節背面の瘤隆起の模列が第2，第3後環節にある。また頭部は顎板によっておおわれているが、左側に触角が見える。体節の後半分の右側には歩肢が見え、さらに後環節の側庇はよく発達し、側縁に浅いきれこみが2つあり、そのために3葉に分れているのが観察される。

測定値：体長約5mm

同定理由：日本産クビヤスデ科 Cryptodesmidae は2つの亜科，すなわちシロハダヤスデ亜科 Cryptodesminae，ハガヤスデ亜科 Pyrgodesminae に分けられている。シロハダヤスデ亜科には3属があり，マクラギヤスデ属 *Niponia*，シロハダヤスデ属 *Kiusiunum*，オオギヤスデ属 *Archandrodesmus* が知られている。マクラギヤスデ属，シロハダヤスデ属は体長10mm以上の種が多く，また側庇側縁は多くのきれこみがあって小葉片状突起をもっている。オオギヤスデ属は側庇側縁の状態が本コハク内のヤスデに似ているが，肛門節が相違する。以上の理由によってシロハダヤスデ亜科のヤスデではない。ハガヤスデ亜科のヤスデは3属が知られており，いずれも体長5—6mm程の小形のヤスデである。コブヤスデ属 *Pseudocatapyrgodesmus* は顎板の前面が左右2葉に分れているのが特徴だが，コハクの中に封じられているヤスデは顎板部の観察が不完全ではあるがコブヤスデ属のものではない。ハガヤスデ属 *Ampelodesmus*，キレコミヤスデ属 *Rhipidopeltis* はよく似た属であるが，顎板の前縁は前者で10小葉



第XX—5—1図：キレコミヤスデ属の一種（標本No. 134 C—b）

\* 和歌山県立能野高等学校

の浅い切れこみに分れ、後者は14小葉に分れる。しかし今回の標本ではその観察が不完全である。後環節背面の瘤隆起が前者では大きいのに対し、後者はそれほどでもないことからしてキレコミヤスデ属の一種と同定した。ハガヤスデ属とキレコミヤスデ属の生殖肢は顕著な特徴を示し、もし雄の個体であって直接生殖肢のとりだしが出来れば属や種の決定が容易である。

同属種の化石の有無：ヤスデ類の化石はほとんど発見されず系統上の研究には生かされていない。外国では第三紀のコハクからヤスデ類が見つかったが、現存の目に所属する化石種である。日本からのヤスデの化石類報告はほとんどない。したがって今回のようなシロハダヤスデ科の化石は知られていない。

同属の現棲種の地理的分布と生態：クビヤスデ科のヤスデは全世界に分布しているが、熱帯系要素のヤスデであり、ほとんど日本特産属(種)である。キレコミヤスデ属は1956年11月25日、森川国康博士が山口県秋吉台狸穴洞穴附近の森林下で採集されたヤスデをもとに、三好保徳博士が発表した珍奇なヤスデである(三好・1958)。その後、紀伊半島南部の各地でも採集されたが、生殖肢に多少の違いはあったものの、キレコミヤスデ *Rhipidopeltis sinuata* Miyosi, 1958 と同定した(湊・1968, 1971)。その他、筆者は滋賀県伊吹山山頂(新種、未発表)、京都市貴船(未発表)、舞鶴市青葉山山頂(未発表)などでも採集した。三好(1958)によれば北九州でも同属が採れている。移動性の少ないヤスデであるので本属にはさらに新しい種類が増加すると思われる。紀伊半島南部の大塔山系では陰湿な森林の落葉の下に棲息し、5月初旬に交尾している個体を観察した。本属についての生活史はわかっていない。個体数は多くはなく、日本のヤスデの中でも珍品の部類に属する。

まとめ：本報告で取り扱ったコハクに包含されたキレコミヤスデの一種 *Rhipidopeltis* sp. は熱帯系要素のヤスデである。現生種は西日本の陰湿な森林下の落葉下に棲息しているが寡産な種類群である。ヤスデは陰湿な環境を好むので、当時は相当な森林が繁っていたことが推定される。

#### 参 考 文 献

- 三好保徳(1958)：日本産倍足類及び唇足類の分類学的研究 25, 秋吉台方面から得られたヤスデの2新種, 動物学雑誌 67 (10), 297—298.
- (1959)：日本の倍足類, 1—223, pl. 1—19. 東亜蜘蛛学会
- (1966)：動物系統分類学 7 (中B), 40—81 (倍脚類), 中山書店
- 湊 宏(1968, 1971)：紀伊半島南部の倍脚類について (I), (II), 南紀生物 10 (1・2), 19—25; 13 (2), 45—47.